

2021年(令和3年)7月21日(水曜日)

トレンド 語り

創業54年の大井川電機製作所(静岡県島田市)の新規事業が話題を呼んでいる。長年、自動車用電球一筋のOEM(相手先ブランドによる生産)メーカーが、新たに生産販売しているのは「ハナビラタケ」という名のキノコだ。見た目がサングや花びらのような形状

中村 泰子

で、夏から秋にかけて標高1000以上の高山で自生する。今年2月「ホホホタケ」とネーミングやパッケージを刷新。電球メーカーのユニークな取り組みとして注目を集めている。同社近くの「道の駅」に出荷したところ市場や卸業者の目にとまり、今は静岡県内だけでなく、東京の

電球メーカーのキノコ栽培

意外性で注目集める



ハナビラタケは幻のキノコともいわれる

新製品

携し、販売促進を図る。働。ラボから約10倍の月間

発光ダイオード(LED) 最大6万パック(80μ/1

電球の台頭や省エネ化など パック)の安定出荷が可能

業界が激変する中、社内公 となった。

募案件として2015年か 「ホホホタケ」は、食べ

ら栽培研究を開始、3年後 た人、生産する地域の人、

には独自の栽培法を確立し そして会社がそれぞれ「ホ

付きた。さらに「電球メー た。中河満社長によると、

カーが希少なキノコを栽 「安定供給が可能となり、

培」という意外性で徐々に 新規事業の確かな土台がで

注目を集める。3月から香 きた」

港とシンガポールへ輸出開 総額2億円を投じ、20

始、5月から石川県穴水町 20年8月に落合生産拠点

の力キなど地方特産物と連 (静岡県島田市)で本格稼

営(フームブランニング代表)